

# 文書館通信

18号

東御市文書  
令和5年  
5月 発行

☎ 文書館直通 0268-67-3312

東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

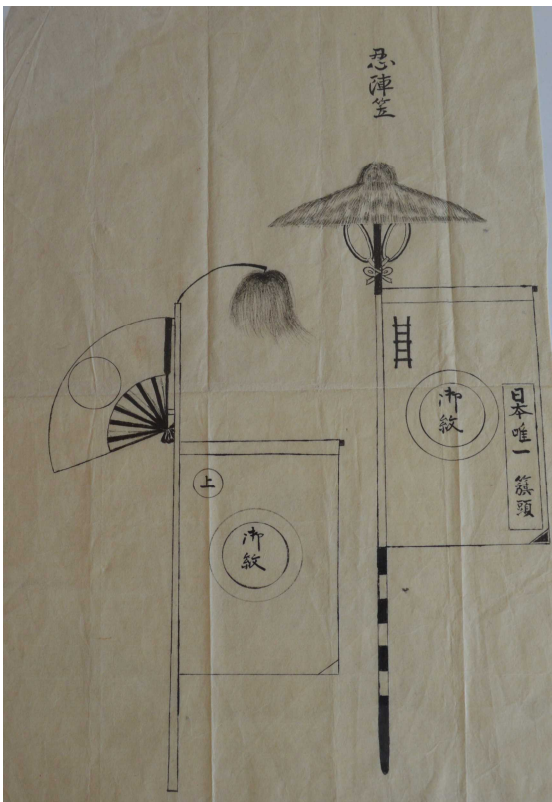
📧 メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp



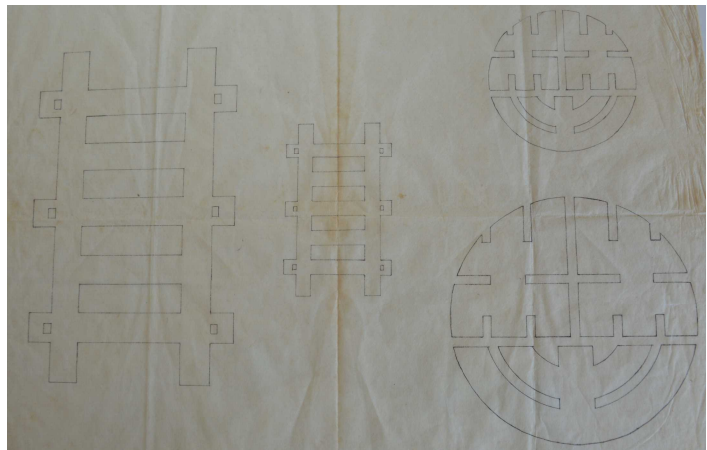
こいのぼりの季節になりました。「こいのぼり」は、中国の『後漢書（ごかんじょ）』という書物に書かれた故事に由来すると言われます。鯉は竜が身を変えたものと考えられており、鯉が黄河（こうが）という長く広い大きな川をさかのぼって、河南の「竜門の滝」を越えると竜に変身するというお話です。これは「鯉の滝登り」とも言われ、「鯉幟（こいのぼり）」の風習につながりました。鯉のぼりの風習は江戸時代の中頃に始まり、江戸の武家の家では端午の節句に「幟」を飾る風習があり、やがて庶民の家では鯉のぼりを飾るようになりました。ですから、鯉のぼりは「匹（ひき）」ではなく、「旒（りゅう）」と数えるわけです。

そこで今月号は、牧野八郎左衛門（まきの はちろう ざえもん）家文書の「幟（のぼり）」に関する資料をご紹介します。

まきの はちろう ざ えもん け もんじょ はたがしら のぼり はた したず  
【牧野八郎左衛門家文書】旗頭の幟旗デザイン下図



牧野八郎左衛門文書 資料No.355 年不詳



牧野八郎左衛門文書 資料No.1181 年不詳

作成年や、何のための旗なのかなど、詳細はまったく判りませんが、史料No.355のデザイン画中に「日本唯一旗頭」（はたがしら）の文字があることより、「旗頭」という大役を仰せつかり、幟のデザインを考えていた時のものであると想像できます。丸い「御紋」は藩主牧野家の「丸に三つ柏」紋でしょう。

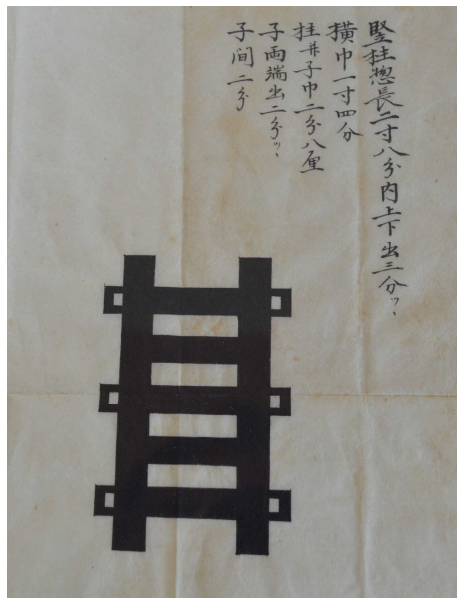
長岡藩藩旗で知られる「五間梯子（ごけんばしご）」も描かれています。

【牧野八郎左衛門について】

小諸藩牧野家は、小諸藩主牧野氏に仕えた家臣（家来）です。小諸藩主牧野氏と同じ姓ではありますが、親族ではないとされています。小諸藩には小諸四天王（してんのう）家と呼ばれる、主要な家臣団がいました。これが、加藤・稲垣・真木・牧野の4氏です。この牧野氏には、牧野八郎左衛門家とその分家の牧野庄兵衛正長家があり、正確には4姓5家系ということになります。

当館所蔵の「牧野八郎左衛門家文書」は東御市和（かのう）の深井功家に伝来した史料群で、深井功関係文書とともに、当館に寄贈されたものです。

子間二分  
 子両端出二分ヅ  
 柱并子巾二分八厘  
 横巾一寸四分  
 豎柱惣長二寸八分内上下出三分ヅ



牧野八郎左衛門文書 資料No.505 年不詳

※用語註釈

- ・豎柱：縦に並んだ二本の長い縦木
- ・寸（すん）：1寸=約3.303cm
- ・分（ぶ）：1分=約0.303cm
- ・厘（りん）：1厘=約0.0303cm
- ・子：横に渡された短い横木

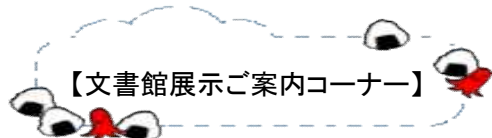
意訳

◆梯子の長さは、9.030cm。その上下は0.909cmずつ飛び出す。2本の豎柱（梯子）の幅は4.515cmで、豎柱と横木幅は0.8484cm。縦木の両側には、0.606cmずつ飛び出し、横木の間隔は0.606cm。という、旗指物（はたさしもの）の図であることを示しています。

〈小諸藩と五間梯子紋〉

小諸城へ入った初代城主（藩主）である牧野康重は、元禄15年（1702）に、越後与板より1万5千石で入封しています。城主牧野家は戦国時代、三河国牛窪（愛知県豊川市）を本拠地として「常在戦場」を家訓としました。

牧野家の家紋は三ツ柏ですが、宗家（本家）長岡藩が「五間梯子」を藩旗としていたことから、小諸藩も藩旗に「五間梯子」を使っていたと伝えられます。当館所有の今回紹介した古文書は、まさにそれを裏付ける資料と言えます。



これは、北御牧郷土資料館で保管されていた昔の弁当箱です。同郷土資料館の閉館に伴い、東御市文書館に移管され、当館にて展示紹介しています。

「ご飯入れ・水入れ・おかず入れ」3点セットの珍しいお弁当箱です。

ご来館の際は、ぜひ実物をご覧ください。



目録No.41 小山光蔵氏寄贈（布下）



水入れ